

# 日本海を雄飛した北前船主の屋敷、隆盛な時代の『想い』をいまに・・・

## 蔵六園庭園の由来

蔵六とは亀のことで。手足と頭と尾の六つを甲羅の内側へしまい込むので蔵六といひます。

大聖寺藩主前田利魯公が、庭で亀にそっくりな滝石（自然石）をお目にとめられ、蔵六園と命名されました。当家は、江戸時代から明治の中期にかけて日本海を雄飛した北前船主の屋敷です。



## 庭園

滝口正面にある立て石は寿老人の形をしており、横に鶴石を従え、なつめ型の手水鉢の下には大亀が頭をもたげ、池は心字型で生水が湧き出ており、長寿を祝福する意味をあらわした庭園です。

約千坪の敷地に建坪は延約300坪。地形は山を崩してつくった軟岩の岩山で、庭木は鉢状に穴をあけて植えた特異なもの、そのため、百数十年を経た現在でも、当時よりあまり大きくなっておりません。



## 建物

母屋（オエ）の二階（ツシ）から、天保七年より明治三年までの年層が発見され、又その他の史料から、江戸下期建造と推察されます。全館紅がら漆塗りになっており、奥座敷は大聖寺藩主が御来宅になった折に使われた部屋です。土蔵は七棟あり、当時の生活様式がしのべられます。

## 置き石・飛び石

能登滝石・福浦石・佐渡紅石・三国波付き石・京の鞍馬石・伊予石・丹波石・丹後石・紀州石・出雲石・彦根の虎石・滑川の翡翠原石・地元片野の長者石等全国各地から北前船によって運ばれた貴重な庭石がはいっております。

## 石橋

一本彫りの御影石で大聖寺藩の藩邸にあったといわれております。

## 燈籠

十一基あり、金沢産の青戸室石八尺燈籠は、大聖寺藩役職連署の文久元年に下げ渡した書状がついております。御影石七尺燈籠は、約四百年の歴史があります。皮付鞍馬石の寄せ大燈籠は、加賀百万石前田家家老 横山家より到来の品です。茶室前のつくばい石の一式は藩邸にあったと伝えられ、そのうしろにある明り取りのキリシタン燈籠は、船主先祖の土地堺港より江戸時代に取り寄せた品です。



# 北前船主屋敷 蔵六園

## 館内のご案内



## Tearoom

喫茶室

抹茶・コーヒーなどでおくつろぎ下さい。



## Gallery

奥蔵内部展示室

古文書、古九谷、吉田屋、宮本屋八郎赤絵、松山窯などを展示してあります。文久3年建造（七つの土蔵の中の一つ）



## Art shop Nakagoshi

古美術 中越 橋立店

古九谷、吉田屋、などの古美術品や茶道具、新作九谷他を販売しております。